

「戦後 70 年、メディアは戦争を止められるか」

表題は「2015 平和を語る八月名古屋集会」(8.15 集会)の講演である。講師は元 NHK プロデューサーで、現在は武蔵大学教授の永田浩三さんである。会場のイーブルなごや(女性会館)講堂には多くの人がつめかけた。先日のレポートにも書いたように、この「8.15 集会」には懐かしい思い出と愛着がある。ずっと行けなかったが、久しぶりに参加できた。

講師の永田さんは「クローズアップ現代」や「NHK スペシャル」など数多くの番組を制作されてきた。プロデューサーとして著名な永田さんは、「ETV 番組改編事件」により法廷に立つことになる。



2001 年 1 月 30 日、NHK 教育テレビで放送された ETV2001「問われる戦時性暴力」(シリーズ「戦争をどう裁くか」第 2 回)をめぐる事件である。放送に至る過程で政治がらみの大幅「改ざん」が行われ、8 年間にわたって争われた。永田さんは番組のチーフ・プロデューサーであった。番組改編に関わった中心的な政治家は安倍晋三である。

この事件については、今年 1 月 16 日にレポートした松田浩『NHK 新版－危機に立つ公共放送』で紹介されている。講演でもこの事件について詳しく語られたが、やはり当事者による臨場感あふれる話はじつに興味深かった。安倍晋三という政治家、NHK 上層部の生々しい動きは、現在の「政治とメディア・NHK との確執」につながるものだ。永田さんの講演はこの事件だけでなく、前日の「安倍談話」から始まり、靱井会長など NHK 問題など多岐にわたるものであった。ここでは、永田さんたちが作った「杉並の市民による戦後 70 年宣言」を紹介したい。このサイトから宣言文などが読める。

(宣言にあたって) 2015 年の夏。戦後 70 年----、しかし本当に「戦後」と言っているのか、もしかしたら「戦前」や「戦中」なのではないか。そんな気さえるこの頃です。

アジア・太平洋戦争が終わりを告げた時、わたしたちは、二度と戦争に手を染めてはならないと、世界の人びとに向けて誓いました。その誓いが今、根底から覆されようとしています。どうしてこんなことになったのでしょうか? 日々の暮らしに追われて、政治や社会への関心を失くしたからでしょうか。世代を超えた記憶の継承を怠ったからでしょうか。行政に白紙委任し、消費者としての日常に慣れ過ぎたからでしょうか。答えは簡単ではありません。現政権を生み出したわたしたち自身の責任も問われなければなりません。わたしたち杉並の市民は何度も議論を重ねました。そこから生まれたのがこの宣言です。

(2015 年 8 月 17 日)